

月刊反トマホーク通信

No. 41
89. 3. 20
定価 100円

〒150 東京都渋谷区渋谷2-5-9 パル青山502 トマ喰い虫社 ☎03(498)6095 044(63)510 1
郵便振替 東京6-136148



デザインは横須賀の新倉裕史さんです。

- アピールのよびかけ
「北西太平洋に軍縮の流れを作り出そう」
- インタビュー：ニック・マクレラン
「労働者が核艦船を止めた」(メルボルン)
- NEPA (米国環境政策法) でトマホーク艦の母港をくつがえす ————— ヨコスカ/ユージン
- 日本の反核反基地運動の課題(下) …前田哲男
- 3. 1 非核独立太平洋の日・ビキニデー 記念行事(東京・京都・広島)
- 反核ホットラインだより

トマホークの配備を許すな！ 全国運動

●維持会員(月間会費)

団体	1口	2000円
個人	1口	1000円

●参加会員(月間会費)

団体	1口	1000円
個人	1口	500円

●通信会員

年間	1口	2000円
----	----	-------

あなたも仲間にも！(会費は本誌購読料を含みます)



3・1

●ビキニ・デー／非核独立 太平洋デー記念セミナー

オーストラリアから ニック・マクレランさんを招いて



三月一日は「ビキニ・デー」であり、「非核独立太平洋の日」である。また、朝鮮半島では七十年前の「三・一独立運動」の記念日でもある。

日本の私たちにとって三重の意味での重要な意味を持つこの日を記念して、反トマホーク全国運動では三月四日、東京でセミナー「自立をめざすサンゴ礁の国々」を開催し、太平洋の歴史と現状を学んだ。幸い、南太平洋を語る最良のスピーカーであるニック・マクレランさん(オーストラリア、パシフィック・ニュース・ブレティン編集者)を招くことが出来た。また、山本孝人さん(ピースボート主催者の一人)からは、最近訪問したペラウのフレッシュユナ状況報告があった。まず、ペラウの現状について、「ペラウの状況は一時期にくらべだいぶ落ち着いた印象だった」と山本さん。昨年十一

月の総選挙で、米国よりのニラケル・エブソン氏が僅差で大統領に選出されたが、一方上院では十四名のうち十名、下院では十六名のうち五名を非核憲法擁護派が占めた。一昨年来日したビクター・スギヤマ氏も上院に再選されている。昨年八月には八十七年八月の改憲国民投票と自由連合協定批准は無効であるとの最高裁判決が出された。この判決では、改憲には議会の四分の三以上の賛成が必要との判断があった。このため議会の重要性が高まり、憲法擁護派の人々は今回の選挙を多くに重視していた。

つづいてニック・マクレランさんが南太平洋の国々の現状について豊富な情報と体験にもとづいて縦横に報告した。

これらの国々はきわめて多様で複雑な社会構成を持っている。「南太平洋には一二〇〇の島々があり、国家としての人口は三五〇万人から八千人、文化も多様です」①キリスト教②資本主義③保守的といった共通の特徴をあげることが出来るでしょうが、たとえばトンガは王制の国だし、メラネシアは農村社会です」

歴史的には、この地域はアフリカなどで独立が相次いだ六十年代の後、七十年代から先進国による植民地化が始まった。「ゆっくりに進国による植民地化が始まった。旗は「破った植民」が特徴だという。旗は「破って

北西太平洋に 軍縮の流れを 作り出そう!

●アピールにあなたも 連署してください

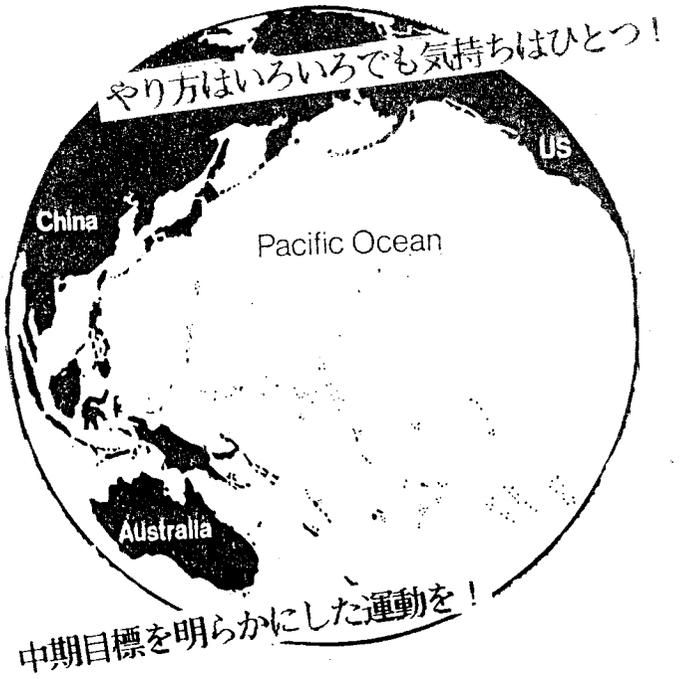
で適確な中期目標を見定め行動することが求められていると思います。

同封のアピール文をお読み下さい。

まずは、この認識を共有しよう、というのがこのアピール運動です。

アピール運動から始まって、大きな草の根運動のうねりを創る。それも統一された一つの運動というのではなくて、さまざまなインシヤティブの運動が起こり、それらが対話し交流しながら大きくなっていくようなうねりを創ることをめざしたいと思います。

- 一、同封のアピールの賛同人として連署して下さい。同封のハガキに切手を貼って返信におつかい下さい。
- 一、あなたの周辺で賛同人を募ってお知らせください。あるいは、「この人」にアピール文を送れ」とご連絡下さい。
- 一、四月末日をしめ切りとします。有名無名を問わず、できるだけ多勢の賛同人の名前を付してアピールを発表



一、アピール運動の経費を賄う目的で、千円程度の任意カンパをいただければ幸いです。振替用紙を使うときは、通信欄に「アピール・カンパ」とお書き下さい。

します。報道・メディアにも発表しますがさまざまな運動メディアでアピール全文を広めていただくことを訴えます。

捨てられた」のではなく、「ゆっくりと降ろされた」のだという。

しかし近年、これらの国々は独立への動きが活発化している。その運動の中ではとくに労働運動が重要な位置にあるという。英国領のエリート支配層は体制に対して従順で、学閥や門閥を形成して多国間のつながりを作っているという。またこれらの諸国を支えているのは先進国援助である。一応西側同盟に含まれている国が大半だが、バヌアツだけは非同盟路線を選んでおり、キリバスやフィジーのように政情不安を抱えている国もある。

マクレランさんは「私たちはこれらの国々が小さくとも活動的な国だということをお知らせがちだが、こうした社会内部の動きに注目しなければならぬ」と話した。

「太平洋の人々との連帯」は私たちの反核運動の最大のテーマの一つだ。それを実践する前提として、これら社会的・歴史的多様性を理解すること、そのために私たちが学ばなければならぬことが、山ほどあることを教えられたおもしろいだった。

「大変舌たらずな報告になってしまいました。このセミナーの記録は近く雑誌「技術と人間」に掲載される予定です。ぜひ読んでください。また、「全国運動」ではこの報告をも(六ページ下段へ)

インタビュー 核艦船を止めた 港湾労働者と市民の たたかい

ニック・マクレラン

——昨年十月のメルボルンでの核艦船入港阻止の行動(本誌第三十八号で既報)を聞いて大変感銘を受けたのですが、それに至る経過を少しお話しください。

●(マクレラン)昨年(一九八八年)の九月から十月にかけて、「オーストラリア建国二百年祭」——これは白人のオーストラリア入植から数えて二百年という意味で、先住民アボリジニの人々にとってはまったく不当な祝典だったのでありますが——のために、オーストラリア政府は各国から軍艦を招待しました。これに応じたのはアメリカ・イギリス・フランス・日本など約十五か国。やってきた四十



隻にのぼる軍艦のうち七隻が核艦船で、その中には米トマホーク艦ニュージャーシー、同インガソル、英空母アークローイナルなどが含まれていました。これらの軍艦は、シドニー港で海軍演習をする前にオーストラリアの主要な港を回りました。メルボルンではこれに反対して大きな抗議行動が起こったのです。

——具体的にはどんな行動がおこなわれましたか？

●今回の行動の中心になったのはメルボルンの港湾労働組合です。広範な市民の反対と悪天候に加え、港湾労働者がアークローイナルと支

援艦フォートグレンジのドック入りを拒否したため、二隻の船は二日間メルボルンの港をぐるぐる回ったあげく、計画されていた公式行事を全部キャンセルして、予定より一週間も早くメルボルンから引きあげざるをえませんでした。これはメルボルンおよびオーストラリアの平和運動にとって大きな快挙といえます。

——港湾労働組がそのような行動に立ち上がった理由は何でしょうか？

●それは労働組に限らず一般の人々も、核艦船の安全性について大きな不安を抱いているからです。先の二隻とともに核兵器を搭載しており、核兵器事故の可能性は否定できません。実際アメリカの核艦船では多くの事故が起こっているのです。また多くの人が、核兵器の存在自体について根本的なモラルの面から反対しています。またいまだ少数ですが、自分の安全のためだけでなく、太平洋全体の非核化という観点から反対に立ち上がっている人もいます。

——昨年六月、地中海の小国マルタで英核艦船の寄港を阻止するたたいが成功を収めました。それとの関連は？
●国際的な連帯という点で、私たちがマルタ

のたたいにたいへん勇気づけられました。英艦船が入港しようとした時、マルタの港湾労働者たちは巨大なタンカーを港の入口に浮かべ、入港をストップさせることに成功しました。政府はあわててタンカーをどかさうとしたのですが、波止場に座りこんだ七千人のデモ隊のために結局それもできませんでした。これは労働組合が核艦船阻止に大きな力を発揮した例といえます。

——オーストラリアの他の港ではどうだったのですか？

●シドニーとメルボルンでは長く平和船団が活躍してきましたが、今回その他の多くの都市でも広く反対行動が行われたことは特筆すべきです。たとえばビクトリア州の小さな港町ポートランドでの行動です。ここは保守的な田舎町で、今まで一度も軍艦が寄港したことはありませんでした。それが今回の艦船寄港に際し、二千人の市民がドックに座りこんで抗議行動を行ったのです。またシドニーでは五十才の婦人を含む五人がオペラハウスのてっぺんよじのぼり、核艦船に反対する横断幕を掲げました(五人とも逮捕・連行されましたが)。またグリーンピースは、シドニーでの英核艦船アークローイナルの一般公開にグループでまぎれこみ、船側に一列になって

いっせいに上着をとり、下に着ていたTシャツに一文ずつ書かれたスローガン——「この船には核兵器あり」——を集まった群衆に効果的にアピールすることに成功しました。

——おもしろい趣向ですね。日本でもやりたいなあ。

●どうぞ、どうぞ。それも国際連帯の一つですよ。(笑) 国際連帯といえば、シドニーでは「海の軍備撤廃を太平洋運動(PCD)S」も抗議行動に加わり、これには韓国・ハワイ・カナダ・アメリカなどから多くの平和活動家も参加しました。アオテアロア(ニュージーランド)からも三隻のヨットが、この種の国際行動としては初めてタスマン海峡を渡ってやってきました。日本からは反トマ全運動の梅林さん、熊本の神田さんが来られ、またまぶつかった日本の護衛艦に向かつて抗議の声を上げる一幕もありました。乗組員も、よもやシドニー港の真ん中で日本語の抗議を聞くなどとは思っていませんでした。(笑) (この経緯については本誌第三十六号に詳しい報告があります。……編集部)

——これらの行動に対する市民の反応はどうですか？

●最近の世論調査によると、オーストラリア国民の五十%が核艦船寄港に反対、二十四%が賛成となっています。わたしたちはこの結果をもとにして、核艦船寄港に反対するよう政府に迫っていくとともに、ひきつづき市民に対する宣伝・教育に力を注ぐつもりです。

——オーストラリアの核艦船寄港反対運動はどのように組織されているのですか？
●わたしたちは「反軍艦イニシヤティブ・ネットワーク」という連絡組織を持っており、それぞれの都市をつないでいます。これまで



米艦船は中東・ペルシャ湾・インド洋からの帰途、オーストラリアの西海岸の港(フリーマントルやコクバイン・サウンド)に寄港するのが常でしたが、最近では東海岸にも来るようになりまし。そのため東海岸の主要な港で反対グループが次々に生まれています。わたしたちは「ネットワーク」を通じて資料や情報の交換を行ない、それぞれの地域の特徴に合わせた運動の戦術などを話し合っています。メルボルンでは労組、教会、アボリジニ支援組織、売春反対グループなど、さまざまな団体が核艦船反対運動に参加しています。

——最後に、今後この運動がオーストラリア全国に波及すると思いますか？
●ええ、もちろん。今回の運動の成功によって、核艦船寄港はバース・メルボルン・シドニーといった限られた地域だけの問題ではなくなりました。昨年十月以降この三月まで、オーストラリアの港には一隻の軍艦も入っていません。四か月以上こういう状態が続くのはきわめて珍しいことで、昨年の行動が米英仏などの政府に慎重な態度をとらせているのは明らかです。もちろんわたしたちはこれが一時的ななごであるのは承知しています。今年七月には、アメリカの軍艦と軍隊が参加す

る戦争ゲーム「カンガルー演習」がオーストラリア北部で始まります。しかし昨年の運動の広がり、特に労組の行動がオーストラリア政府をあわてさせたのも確かなところですが、政府は海軍の士気をかきたてる目的で四十隻の軍艦を招待したのですが、そのもくろみはまったく逆の結果を生みました。すなわち核兵器と非核太平洋に関する議論を、それも非常に効果的なやり方で、かきたてることになつてしまったのです。今後この議論は、オーストラリアにおいてますます重要なテーマになっていくだろうと思います。

——貴重なお話をありがとうございます。(聞き手*山田紀子)

(四ページ上段から)
とに太平洋と私たちを考えるためのパンフレットを作る予定です(編集部)。

なお、マクレランさんはこのあと京都と広島を訪れ、講演を行った。京都では毎日新聞が大きく集会をとりあげた。また、広島では市の平和文化センター理事長と会見した。

「日本の非核三原則は破られている」とマクレランさんが問いつめたところ理事長は「核の持ち込みには不安を抱いている」と答えた。こうした反応は初めてのことである。

大切に育てたい

服部翠(なつ) ●横須賀市・主婦

ユージンで得た宝物

アメリカ環境法で
核艦船の母港を
くつがえそう
一枚のチラシが大きな
波紋を生んで……



ユージン、ユージン、ユージン……と、この一ヶ月あまり、しゃべりもし書きもしているうちに、頭の中のテープがきりきりと回転数をあげ硬いボールになってしまった。これぞ私のユージン・ショック！仕方なく気分転換に映画をたてつづけに二本みる。気分の変ったところでさあまた新しいテープを用意してはじめよう。

名前も知らない町へ

ユージンは、米西海岸オレゴン州にある人口十万人の大都市。そこで二月八日から十一日まで、第四回非核自治体国際会議というのが開かれた。私には関係のない遠いできごと

と想像していたこの会議が、友人のNさんの「行かない？」というひとことと急に現実のものとなった。

ほんの遊びのつもりの旅が、どうせ行くのならと、横須賀からのチラシを持っていくことになってしまった。ちょうどそのころ、私の住んでいる横須賀で「核を追い出すためにアメリカ政府を裁判で訴えてやろうじゃないか」という話もち上がっていた。去年の六月横浜で、ジャクソン・デイビス博士の核想定事故の分析結果をうけての「県民審査会」が開かれたが、そこで驚見一夫氏(横浜市立大教授・国際法)が提起されたのがこの話だった。そのキーワードはNEPA(ニール、米国の国家環境政策法)。

ところが、このチラシがユージンでの私のあり方を変えてしまった。

会議第一日目、オープニングセレモニーの後、ランチをたべながらの婦人集会が開かれた。参加者二十人あまり、通訳をはさんでの自己紹介からはじまった。このときとばかり

チラシを配ってアピール。自己紹介も終わりに近くなつた頃、若い女性が立ち上がって、何だか私の方を見ているみたい……と思う間もなく、「ほら、あなたと話がしたいっていつているのよ」とNさんにこづかれて思わずシヤンとする。後からプログラムをみたら彼女の写真がでてびっくり。彼女はカレン・トバキアンといって、明日の全体会でのグリンピース(二〇ヶ国に二五〇万人の会員)を代表してのスピーカーだったのだ。彼女のテーマは「港と海の非核化」、なんだ、私のチラシと同じじゃないか！

オーケー、あなたたちの運動を支援しよう

その夜、市長の歓迎パーティーの、おいしいオレゴン・ワインも早々にきりあげての彼女との話しあいは、いきなり核心にふれる気持のよいものだった。彼女は私に、ファイフ、バンカーヒル母港化反対のために何をしたら日本の法律(たとえば平和憲法)で訴訟はできないのか、等等質問ののち、「オーケー、あなたたちの運動を支援しよう。まずは明日のスピーチで早速とりあげよう。あさってはワシントンでグリーンピースの集会が開かれるから、そこでもとりあげよう。有能な弁護士を知っているからサンフランシスコに帰ったら早速相談しよう」。

話が終わってすっかり嬉しくなった私たち、思わず抱きあったり、年を教えあったり(彼女三十四才、私五十二才)、若い、とお世辞をいいあったり、写真をとりあったりして別れをおしんだ。

カレン・トバキアンに勇気づけられて、翌朝から顔つきもはれやかに足どりもかるく会場にのりこみ、朝のあいさつがわりにチラシ

をわたしたのがミリーへだった。彼女はボランティアとして私たちの到着時飛行場に迎えに来てくれた。カレンのくいづくような目がその行動力をあらわにしているのとは対照的に、ミリーは、目に無限のやさしさをたたえた、白髪、猫背の老婦人だった。

おだやかなミリーの、しかしその反応の早さ。午前中の会議が終わるまでの間にチラシを読んでくれて、たちどころにこう助言。

「この問題はステイプがくわしいから彼に相談しなさい」。ステイプとは、何とこのユージン会議の地元のハンサム実行委員長。

午後会議に参加中、当のステイプが偶然私たちの横をとおったので思わず呼び止めてしまった。彼は忙しい身もかえりみず私たちの前の席にすわりこみ、ただちに理解を示して、自分たちがNEPA(前述)でたたかった経験を話し、ユージンで一番NEPAに詳しい弁護士を紹介するから彼に相談しなさいと結び、出ていったかと思うとすぐ戻り、弁護士の電話番号のメモを渡してなにげなく立ち去った。

その後話はそのように進み、当の弁護士ラルフ・ブラッドレイ氏に会った。会議場のロビーにたずねてきてくれたブラッドレイ氏はセーター姿の気さくな目。握手をして、さて...というときに白髪猫背のミリーがとんで

きて「テープをとらなくては」と、仲間のこれまたおばあさんにセットさせた。

ブラッドレイ氏は「この裁判はけつして気安いものではないが可能だ」と、しろうと相手にめんどうくさがりもしないで話してくれた後、大切な資料(トップ・シークレットとあったからたぶんそうなのだろう)をひよいと渡して帰っていった。

大切な仕事のお手伝いができてうれしいわ

Nさんと私は高ぶった気持をミリーとその友人エステルにぶつけた。「この話がまとまったら大変な事件よ。私たちと同じ悩みを抱えている人たちが世界中にいるのですもの。本当にありがとう」。エステルは「大切な仕事のお手伝いができてうれしいわ」。四人は感動して抱きあった。

それから四人は、エステルのおんぼろ車につめこまれてお昼を食べにくり出した。よくしゃべるエステルに笑顔であいづちのミリー。食後の散歩はオレゴン大学の広いキャンパス。「ジェシー・ジャクソンがきたときにはここが人で埋まったのよ」としみじみ話すミリー。

ふとみると「遠い夜明け」のボスター。思わず「これ、私たちがみたわ」。「まあ、日本で？」
アメリカと日本で、反アバルトヘイトの同じ映画をみている私たち。一ヶ月前まではそ

●県民審査会
昨年6月18日横浜で開催された。発言者はデイビス博士、鷺見一夫氏のほか前田哲男、田尻宗昭、梅林宏道の各氏ら。この記録は「トマホーク艦母港計画県民審査書」として出版されている。1000円、発行は同会、トマ喉虫社であついています。ぜひ一読を!

キーワード

●国家環境政策法 (NEPA)
アメリカの環境保護のための法律。連邦政府の行う主要な活動に対して事前の環境影響評価を義務づけている。国外での活動にも適用される。

●ジャクソン・デイビス博士の想定事故分析
博士は昨年六月来日、横須賀、佐世保、呉で核兵器事故による影響を予測、発表した。その結

の名も知らなかったユージンというまちが、ミリーや、エステル、オリブ、ステイプ、リサ、エバ、ラルフ...それにカレン・トバキアンという具体的な顔をもつて、いま私を満たしている.....

こうして思いがけないおみやげを胸一杯につめこんで私は帰ってきた。これが、「私のユージン体験」。そしてこの体験は、いま仲間たち共有の宝物となつて確かな歩みを始めています。

米の対策演習ビデオ 国内初上映

核兵器事故の恐怖 まざまざ



(2.20 神奈川)

た国第一部
核事故の
公開演習

一九八三年にアメリカのネバダ核実験場で実施された核兵器事故対策演習(NUPAC)の模様を収録したビデオ「NUWAX」が十九日、横須賀市日町の労働福祉会館で開かれたトマホーク艦の横須賀母港に反対する市民の会主催の勉強会でも初上映された。

横須賀の市民団体

反核、反基地運動を続けていた「トマホーク」の危機を許すな、全国運動(艦母港代表)が米国の反核団体を通じて日本を初めて入手したもので、横須賀プリア力国防総省核兵器部が主催し、海軍、国防総省エネルギー省、連邦防災管理局、パシフィック州などが参加して、同年五月五日から十日に実施された。

米バダ核実験場から七、八千キロの距離の町をつくり、そこで起こった核兵器事故への対応は、実際に測定値がプルトニウムと同じ反応を示すラジウムと同一のシミュレーションを使って核放射能をまき散らす核兵器の自衛への危険、環境汚染、放射能管理、広報活動、司令官の権限などあらゆる面での演習を行っていた。



改めて核事故の恐ろしさに見入る市民

核の恐怖を一番よく知っているのは「彼ら」なのだろう。このビデオは、日本語ナレーションをつけて貸し出す予定です。



日本の反核・反基地運動の課題 (下)

軍事評論家 ● 前田哲男

◆前号より続く◆

第10回反トマホーク運動全国会議(88.11.14 東京・町田)での講演
[文責:編集部]

第一点は、反核運動を日本の枠内を越えてアジア・太平洋の人々との協力の下でやって行こうとすれば、直ちに直面しなければなら

それでは、こういう状況を踏まえて、私たちは反核・反基地運動をどういうふうに行っていくのか、行動レベルの課題や国際的な協力・ネットワークについてとは別に、認識レベル、考えの上での課題についていくつか提起したいと思います。
反核・反基地運動にとっての新しい課題の第一として、核軍拡が海洋ベースで、つまり水平線の彼方で、あるいは水面の下で進んでいることが明白な以上、視野の外にあるものを取り込む想像力が必要になってきた。感性より想像力を働かせることが、ものすごく求められていると思うんですね。海洋における軍拡、太平洋をベースとする核軍拡の構造は残念ながらハッキリ目に見えないという形では我々に迫ってこない。しかし厳然としてそれ

忘れてならない加害責任

ないのは私たちのアジア・太平洋の人々に對する加害責任の自覚であるということです。それなしには具体的な運動に入っていくこと

はあるし、ますます拡大しつつある。公海自由の原則、公海使用の自由を核のために、と言う超大国、とりわけアメリカの太平洋における行動は、極めて反人類的といわねばなりません。それを認識するには、我々はかなり想像力を振りしほらなければなりません。視野の外にあるものを見る努力が必要になってくると思っています。
それから、ヒロシマのあとのヒロシマーたくさん生まれ、なお自ら世界化することが出来ない、なぜならば植民地支配の下に置かれていた人々であり、自らの存在を明らかにすることができないヒロシマの後のヒロシマの存在。その人々を我々の視野の中に取り込む努力が、ぜひ必要であると思っています。

海を越える想像力を

反核ホットラインだより

入港情報

12

(2・23) ハドー(P級) 正午 横須賀 に入港

(3・3) ハドー(P級) 午後1時 横須賀

佐世保寄港!

トマホーク搭載疑惑艦ファーフが、3月14日午前零時すぎ、佐世保に初寄港した。これは、佐世保軍研が確認したもので、米軍からはなんの連絡もなく、市当局もその寄港を知らなかった。

この寄港に対し、地元の一反安保・反基地・核艦艇寄港阻止佐世保現地闘争本部が、市長と会見し、抗議した。

賀を出港
ガードフィッシュ
(P級) 正午
横須賀に入港
ハドー(P級)
11時30分 佐世保に入港 同36分 佐世保を出港

中国地方の仲間によって、反核ホットラインが取り組まれています。上記のようなニュースも出ました。ぜひ中国地方に近い方、新しい仲間になって下さい。

連絡先 = ピースリンク 広島・呉・岩国 tel (082) 275-7542

原子力艦入港情報 テレホンサービス

ブッシュホンで、まず 井8301、そして連絡番号 968・1071、次に暗号番号 1071
クロハ イレナイ

騒音を発する訳でも、ましてや核弾頭がある訳でもない。しかし、それなしには核戦争ができないという意味においてますます重要になってくる。C-1、見えない核基地の存在をもっと明らかにして、「核システム」というとらえ方で、核の日常との並存状況、危険な隣合せを訴えていくべきであらうと思ふんです。最後に四番目は、具体的な核軍縮の提起、オルタナティブを我々の側から出していく。アンチ、反対ということと同時に、「それよりこっちはほうがいい」というオルタナティブを打ち出していくことがますます必要になってくるのではないかと思ふんです。核に関してもそうですし、自衛隊に関してもそうだろう。日本の安全保障、日本の平和を守るためには今のような軍隊であるより、もっとこっちはほうがいいのではないかと、というオルタナティブを出していく。これはエネルギーのレベルですと、すでにロビンズが「ソフト・エネルギー・パス」という形で原発とか巨大火電にかわるコミュニティ・エネルギーの概念を提出して、すでに市民権を得ていますが、「ソフト・セキユリティー・パス」という形でのオルタナティブを、もっともっと私たちが作っていくべきではないのか。

例え、北海道を進む鉄の戦車。来年からまた新しい戦車が生産され始めるんですが、時十二歳の少年だったけど広島に原爆が落ちた時、飛び上がった喜んだ。今ではもちろんそのようなことは思っていないけれど、そういう人がアジアにはまだ沢山いることを忘れてないでください。」

中国では重慶を取材しましたが、ヒロシマ、ナガサキの時、爆竹を鳴らして歓喜した人が次山います。重慶で飛行されていた中国共産党の機関紙「新華日報」には夏衍(カ・エン)という有名なジャーナリストが論文を執筆していて、これは見事にその意味を洞察した社説を掲げ、非常に感動させます。しかし、一般の民衆の多くは爆竹を鳴らすことで歓喜を表した。ヒロシマ・ナガサキのアジア人にとっての意味は、そういう面もあったんだということを知らなければならぬと思ふんです。これはもう御存知の方も多からうと思ふんですが、広島に住んでおられる原爆詩人の栗原貞子さんが「ヒロシマという時」という詩



海に非核化を!!

はできないと思ふのです。ノーマ・ヒロシマ、ノーマ・ナガサキ型の普遍的な理性に訴える、「世界よ、人類よ」のメッセージであれば、我々が加害責任をそれほど自覚しなくても世界に向かつて言うことができた。だが、アジア・太平洋で、例えば非核地帯を作ろうとか、共同行動をしようということになった時、まずぶつかってくるのは、やはり「お前たちが何をしたんだ、それをどう思うんだ」と言われる私たちの責任のとり方だろうと思ふんです。私はこの何年か無差別爆撃の歴史を調べて、色々な人と会ったり、文献を調べたりしたんですが、やはりそれらを見て改めて痛感したのは、我々はヒロシマ・ナガサキの被害の事ばかり沢山知っているけれども、我々がヒロシマの前に行った、ヒロシマと同じような残虐さについてはほとんど知っていないし、知ろうとしていない。これではアジア非核地帯とか朝鮮半島の非核化といった時に、決してすんなりとは連帯した行動が出来ないのではないかという気がしたんですね。ある会で国連大学の武者小路公秀教授が言われたことですが、国連大学のインドネシア人の学長が退任してお帰りになる時、こう言われたんだそうです。「反核運動が盛んになって結構な事で、自分も支持したい。しかし、私は当

それを何百両北海道に置くよりも、もし万一北海道の人たちが強大な軍事国家であるソ連と隣合って不安であるというのなら、そうでないソフトな形で、国連大学を稚内にするようなことも含めて、非軍事力による安全保障をこちら側から出していく事が必要なのではないか。

を一九七二年にお作りになっています。ヒロシマという時、ああヒロシマと優しい答の返ってくるだろうかと、ヒロシマといえは南京虐殺。ヒロシマといえはパールハーバー。ヒロシマといえは女や子供を牢に閉じ込め、ガソリンをかけて焼き殺したマリアの崖。ヒロシマといえは血と災いのこだまが返ってくるのだ」と書いておられますが、やはりこれからはますます国際化し、ネット・ワーク化し、具体的な行動プランで手を取りあつて行かなければならないアジア・太平洋の反核運動、理念的でない、「世界よ、人類よ!」でもない具体的な核艦船の寄港阻止、あるいは海上における行動の禁止という要求を持った反核運動をやっていく中で、私たちがたしかにものしななければならぬのは、我々が行った加害責任の自覚とそれを二度と繰り返さない決意であらうと思ふのです。

核軍縮の「オルタナティブ」を持つとう

核の危険性、核の存在を把握する必要があるのではなからうか、ということですが、C-1という言葉で表される見えない核基地の存在、確かにそれ自体、軍隊がいる訳でも

会計報告

(89.2.13 ~ 3.14)

[収入]

○前月からの繰越	△106,987
經常繰越	143,013
借入金繰越	△250,000
○今月の収入	174,322
会費収入	127,000
内訳	
維持団体	92,000
維持個人	0
参加団体	0
参加個人	7,000
通信会員	28,000
カンパ収入	28,210
在庫品売り上げ	17,620
反核ホットライン	
売り上げ	1,470
雑収入(利子)	22

[支出]

●今月の支出	△168,709
家賃(3月分)	40,000
水道光熱費	5,029
電話代	7,005
郵送費	56,975
印刷費	50,720
行動費	8,000
郵便振替等手数料	980
●次月への繰越	△101,374
經常繰越	148,626
借入金繰越	△250,000

チーム・スピリットに 抗議する ハガキを出そう!

チーム・スピリット89は三月十四日から二十三日まで行われました。

反トマ全国運動では表紙の絵ハガキでこの朝鮮半島を舞台にした核戦争演習に抗議し、中止を求める運動を展開中です。残念ながら演習は実施され、終わってしまいました。米軍部隊が完全に撤収を終えるのは四月の下旬と思われる。また、今年の反対世論の大きさが来年こそこの演習を止める力につながる

るのです。だから、これからでもぜひハガキを出して下さい。

●あてさき…ブッシュ大統領、ノ・テウ

大統領、竹下首相

●一シート(三枚にモニターハガキ一枚がついて)七〇円、一〇〇枚以上とまれば六〇円。ただし送料は別。

おわび

この絵葉書のモニター用返信ハガキの「料金受取人」となってしまう。私たちはもちろん、天皇制にも元号にも反対です。Xデー前後のこの時期のこのようなミス、油断があったとしかいいようがありません。おわびします。

新着ビデオ

シドニー平和船団

— 平和を求める声



核艦船はいらない! 小さな船で核戦争の機械の前に立ちふさがった人々の行動と思いを伝える感動の小品。

●20分/VHS

●日本語版制作: トマホークの配備を許すな! 全国運動

●販売価格 3500円 貸出しもあります。

(送料別) お問い合わせはトマ喰虫社まで

月刊反トマホーク通信 第四十二号

一九八九年三月二十日発行(通巻四十二号)

*発行 トマホークの配備を許すな! 全国運動

〒一五〇 東京都渋谷区渋谷一五一九

バル青山五〇二 トマ喰虫社

☎〇三(四九八)六〇九五

〇四四(六三)五一〇一

FAX〇四四(六三)九九〇七

郵便振替 東京六一三六一四八

*編集 反トマホーク通信編集委員会

*定価 一〇〇〇円(通信会員年間一〇〇〇円)